

①

しおだじゆんあん かいぼういぎ  
塩田順庵編『海防彙議』巻一・巻二 嘉永3年(1850)頃刊

『海防彙議』は、塩田順庵が菊池海荘きくちかいそうの勧めで編纂へんさんした海防関係著作の叢書で、続編・補遺を入れると全52巻になります。

この『海防彙議』は、海荘が濱口梧陵へ贈ったもののようです。

海荘は、有田郡栖原村すはら（現湯浅町栖原）の出身で、江戸で砂糖商かわちやまござえもん河内屋孫左衛門店を営み、漢詩人として全国的に有名でしたが、海防論者でもありました。

嘉永3年、海荘は海防建議かいぼうけんぎを紀州藩に上奏し、有田郡・日高郡文武総裁に任命されます。その翌年、梧陵が広村で崇義団すうぎだんを結成、安政2年(1855)には浦組を組織して村民を軍事教練するなど、湯浅・広地方では海防の動きが活発化します。